

重要伝統的建造物群保存地区【伝建群】
 国選定金ヶ崎町城内諏訪小路



仙台藩領内の21の要害(城)の1つが金ヶ崎要害です。北上川と胆沢川の合流地点、天然の要害とも言えるべき金ヶ崎城の周りに、武家屋敷が並ぶ武家町のほか足軽町や町人町が形成されました。保存地区は東西690m、南北980mで、当時の武家町の小路がほぼそのまま残されています。屋敷の多くはヒバの生垣やエグネと呼ばれる屋敷林を構えており、屋敷ごとの植栽が桜や紅葉など四季折々の情緒を醸し出しています。



国指定史跡 鳥海柵跡



金ヶ崎要害歴史館



片平丁 旧大沼家侍住宅

夏草揺れる鳥海柵跡や藩政時代の伝建群をめぐる

金ヶ崎町の歴史

鳥海柵～律令制から安倍氏の時代へ

金ヶ崎町では縄文時代の遺跡が各所で見つかっており、国指定史跡「鳥海柵跡（とのみのさくあと）」内からは奈良時代のものとされる竪穴建物跡が数多く発見されています。ここは、古い時代から人々の営みが続いてきた土地なのです。

延暦21年（802）年、坂上田村麻呂によって胆沢城（国指定史跡、奥州市）が支配拠点として造営されました。胆沢城跡から北約2kmにある鳥海柵跡の竪穴建物跡からは胆沢城との関連を示す出土品が発見されており、この地にも律令制度の力が及んでいたことが分かります。その後、10世紀後半になると律令制度は崩れ、胆沢城の在庁官人であった安倍氏が力を持ち「奥六郡※の司」と呼ばれるほどに勢力を拡大します。（※現在の奥州市から盛岡市）同時代の北東北最大級の仏教聖地である国見山廃寺跡（国指定史跡、北上市）も安倍氏によって大規模整備されたと言われており、その強大な力の一端が窺

えます。

鳥海柵がいつ造られたのか定かではありませんが、11世紀前半にはこの地に存在したことが明らかになっています。その頃安倍頼良（のちに頼時と改名）の父、忠良が陸奥権守に任されており、前九年合戦の様子を記した『陸奥話記』では鳥海三郎宗任（安倍宗任、頼時の三男）の柵（城）として鳥海柵が歴史の表舞台に登場することになります。

安倍氏滅亡～前九年合戦から平泉へ

奥六郡で大勢力を誇った安倍頼時の力を恐れた朝廷は、陸奥守として源頼義を派遣します。この、源頼義率いる朝廷軍と安倍氏一族の戦いが前九年合戦と呼ばれます。頼時は、源氏軍についた安倍富忠を説得する最中、流れ矢で重傷を負い鳥海柵に戻った後、亡くなります。貞任率いる安倍軍により苦戦を強いられた源頼義は秋田の豪族清原武則に応援を頼みます。清原氏を味

方に付けると安倍氏の拠点だった衣川関（奥州市）を破り、追い上げを始めます。安倍氏の軍勢は最終的に厨川柵（盛岡市）まで後退することになります。

『陸奥話記』には、安倍氏を追う道中、清原氏と共に初めて鳥海柵に入った源頼義が「頃年鳥海の柵の名を聞きその体を見ること能（あ）はず。今日卿（＝清原武則）の忠節によりて初めてこれに入ること得たり」と語る場面があります。長い間名前は聞き及んでいたものの、見ることが出来なかった鳥海柵に初めて入ることが出来た感激が表されています。鳥海柵は守りの強い安倍氏の最重要拠点であったことが窺えます。

前九年合戦の戦火の中で貞任も戦死し、ついに安倍氏は滅びました。しかしその後、頼時の娘は7歳になる息子を連れて清原氏に嫁ぎます。その息子こそが、後三年合戦を生き延びたのちに江刺（奥州市）から平泉に移り、約100年続く平泉・黄金文化を築き上げる藤原氏初代当主・藤原清衡となるのです。

江戸から明治へ～今なお残る歴史遺構

近世に移ると、金ヶ崎町には盛岡藩との藩境

の重要な地として仙台藩の要害（城）が置かれます。「国選定金ヶ崎町城内諏訪小路重要伝統的建造物群保存地区」では、北上川沿いに建てられた金ヶ崎要害を取囲むように大町備前定頼により整備されたといわれる、武家町と小路が残っており、江戸時代の町並みを垣間見ることができます。

明治31年、胆沢郡相去村の村長を務めていた桑島重三郎が寒村に産業を起すという一心から誘致に尽力し、六原に陸軍省軍馬補充部が置かれます。10月2日の設置日を記念して「二日町」と呼ばれた六原周辺は、人や馬が行き交い大いに賑わいました。六原支部の廃止後、建物は岩手県の所有となり現在も「軍馬の郷」として官舎3棟や土塁等が残されています。平成29年には明治末期の陸軍洋風官舎を代表する典型的な遺構であるとして、本官舎が国登録有形文化財（建造物）に登録されました。

参考文献：『平成28年度国指定史跡鳥海柵跡シンポジウム』金ヶ崎町教育委員会、『陸奥話記』奥州デジタル文庫、『平泉の文化遺産』平泉町世界遺産推進室、『国指定史跡国見山廃寺』一般社団法人北上観光コンベンション協会、『旧陸軍軍馬補充部六原支部官舎調査報告書（岩手県金ヶ崎町文化財調査報告書第29集）』金ヶ崎教育委員会

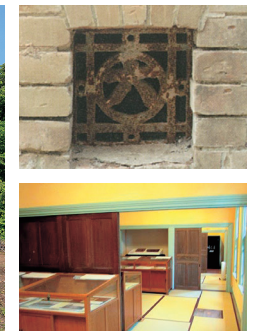
千田正記念館



白糸まちなみ交流館



軍馬の郷六原資料館



金ケ崎町の丘陵に広がる牧野【和光地区】

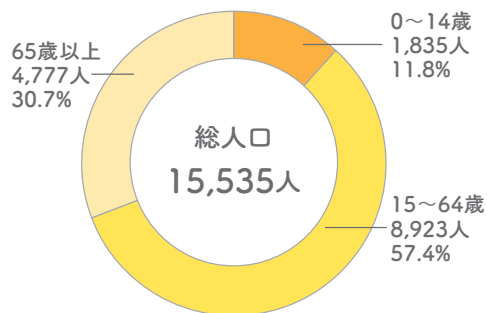


自然豊かな金ケ崎町の基幹産業は農業で、和光地区では田園地帯での米づくりに加えて、「小さな北海道」とも言われる丘陵地形を生かし、酪農が盛んに行われています。和光展望台からは一面の牧野が広がる穏やかな風景を望めます。駒ヶ岳の東麓にあたるエリアを町では交流ゾーンと区分し、自然環境を生かした温泉やゴルフ場、キャンプ場、千貫石森林公園などの保養施設の利用促進と、景観や環境保全の両立に努めています。

金ケ崎町の産業

金ケ崎町の人口（令和2年）

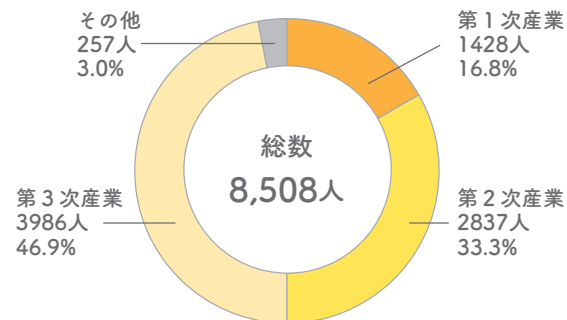
金ケ崎町では昭和30年以降、昭和50年頃まで人口の減少傾向が続いていましたが、昭和55年、金ケ崎工業団地内に大手企業が立地したことをきっかけに、緩やかな増加傾向にありました。平成22年の国勢調査では、少子高齢化の進展などにより総人口は減少に転じています。



金ケ崎町の産業別人口（平成27年）

金ケ崎町における第1次産業の就業者はおおよそ1,400人です。昭和55年から、おおよそ2,000人減少しており、構成割合も40%から20%弱にまで減少しています。

第2次産業のうち、主要産業である製造業の就業者は昭和60年の2,726人をピークとして、2,300人程度の水準で推移しています。

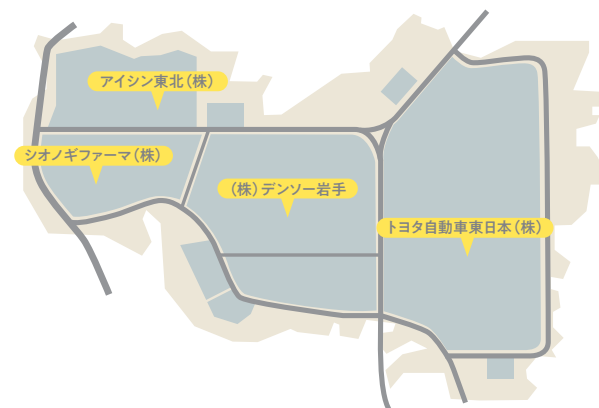


第2次産業	
建設業	465人
製造業	2,372人
第3次産業	
電気・ガス・水道業	37人
情報通信業	40人
運輸・郵便業	402人
卸売・小売業	905人
金融・保険・不動産業	148人
サービス業	2,261人
公務	193人

岩手中部（金ケ崎）工業団地

岩手中部(金ケ崎)工業団地は、総面積312haと岩手県内最大の面積を誇り、医薬品、半導体、東北初の自動車組立工場など有力企業が立地しています。

団地内を縦貫する4車線道路が国道4号に接続し、東北自動車道北上金ケ崎I.C、水沢I.Cからのアクセスが良好です。また、団地内には緑が多く配置され、スポーツセンターや企業内保育所もあり快適に働く環境が整っています。



【立地企業】25社

- 医薬品
 - シオノギファーマ(株)
- 半導体・自動車
 - (株)デンソー岩手
- ものづくり
 - (株)サンツール
 - 日本ファインセラミックス(株)
- 輸送・倉庫・卸売
 - 東鉱商事(株)
 - センコン物流(株)
 - サンデー物流センター
 - 美豊商事(株)
 - 大友ロジスティクスサービス(株)
 - 大東興運(株)
- ガス供給
 - 大陽日酸(株)
 - (株)巴商会
- 自動車
 - トヨタ自動車東日本(株)
 - アイシン東北(株)
 - トヨタ紡織東北(株)
 - 豊田合成東日本(株)
 - (株)FTS
 - (株)ケー・アイ・ケー
 - (株)HOWA岩手
 - ビューテック(株)
 - 関東商事(株)
 - (株)関商ネットワーク
 - (株)EJサービス
 - トヨタ輸送(株)

重点プロジェクトのおもな目標指標（産業分野）

誘致企業数		重点推進作物の販売額	
令和元年度	令和7年度	令和元年度	令和7年度
41社	46社	405,015円/10a	420,000円/10a
創業支援による女性の町内創業件数		観光客入込数	
令和元年度	令和7年度	令和元年度	令和7年度
2件	5件	329,140人	340,000人

岩手中部（金ケ崎）工業団地



北上金ケ崎I.Cや水沢I.Cからほど近い岩手中部工業団地は、医薬品、半導体、自動車組立工場などが立地し、岩手県最大面積の約312haを誇る工業団地です。金ケ崎町には他にも北部地区流通業務団地、森合工業団地など多数の工業団地があり、高速自動車道ネットワークを生かした東北屈指の工業集積地として岩手県一の製造品出荷額を誇っています(2019工業統計)。